

## 第4回 学校構想検討委員会会議要旨

日時 平成30年10月29日  
午前9時30分～11時40分  
場所 1階まなびの広場

### 会議の委員出席者

- ・岐阜大学教職大学院 教授 石川 英志
- ・岐阜教育事務所 学校職員課長 代理 小出 直弘
- ・自治会連絡協議会長 翠 治彦
- ・コミュニティ学園運営協議会会長 大熊 龍夫
- ・町 PTA 連合会長 仲島 秀雄
- ・北方中学校長 浅井 孝彦
- ・北方南小学校教諭 大羽 幸恵
- ・北方町議会議員 井野 勝巳
- ・北方町議会議員 杉本 真由美

### 欠席の委員

なし

### 会議の事務局出席者

- ・教育長 名取 康夫
- ・教育課長 河合 美佐子
- ・学園構想推進室長 浅野 浩一
- ・参事兼総務課長 奥村 英人
- ・参事兼福祉健康課長 林 賢二
- ・都市環境課長 山田 潤
- ・防災安全課長 白井 誠

### 書記の出席者

- ・学園構想推進室 係長 佐藤 弘章

会議の主な内容は以下のとおり

#### 1. 座長あいさつ

おはようございます。前回は8月29日の大変暑い中で開催されたことが思い出され

ますが、ようやく過ごしやすい季節となりました。本日は、第4回目の検討委員会ということで実質的で重要な協議となると考えております。課題はいろいろございますが、今後のデザインを考えていく上で実質的にどのように北方の教育を展開していくのかそれについてみなさんと一緒に考えていきたいと考えております。みなさまにはそれぞれの立場からいろいろ多面的に忌憚ないご意見をいただきたいと考えております。なお本日は、北方学園の根幹とも言えます教育方針等に関する協議が中心となってきます。また、来年度に向けての学校構想をより具体化していくための検討組織に関する提案がなされると思います。みなさまのご意見や願いがどのように構想の中につなげて具体化していくのかそのようなことを考えて参りたいと思いますので、よろしくお願ひします。

## 2. 北方学園構想について

- ・教育方針について説明する。

委員の主な意見は以下のとおり

○安心できる環境がないとなかなか一生懸命になるということは難しいと思います。子どもは照れがあります。中学生の時に一生懸命になるということがかっこいいと思える学校にしたいと考えています。それを踏まえて、「だれもが安心して学び合える」ことは学校が一番大事にしていきたいことだと思います。「深い学び」「安心・安全」「自信・誇り」にしても学校の教育ビジョンを選ぶ時には柱として大事にしていきたいと思う内容なのでこのような形で入っていると学校現場のレベルに落とした時でも学校の教育計画が立てやすいと思います。子どもの面から考えますと小学生と中学生と一緒に生活できるということは、子どもにとって小学生は中学生に憧れを持ち、中学生は小学生に良いお手本となるということで、朝のあいさつ活動の様子を見ても小学生と中学生と一緒に活動することは大変教育効果も上がるのではないかと大変期待しております。

○今までみなさんで話し合ったことが上手くまとめられていると思います。様々な場所で保護者の意見を聞きますと、いじめの問題を一番心配されるようです。この教育方針は子どもたちを中心に意見がまとめられていると思います。これが実現できればとてもいい学校ができると思います。

○9月23日に自治会の総会がありました。その際に、町長、教育長から学園構想について各自治会長に説明を行っていただき、各自治会長とも興味深く話を伺いました。ここにもありますように特色ある教育、特に英語は小学校から取り入れていっていただけ。今、就職するためには英語が必須であることから4年間の大学生活にプラスして1年語学留学して英語を習得する子どもが増えていると聞いております。小学校から

英語教育を深く行うことで将来的にも留学しなくても大学の中で勉強を行えると考えております。

○だれもが安心ということが教職員の間でも合言葉となると良いと思います。9年間学校に子どもたちが通うということになると、多くの教員で1年生の頃から知っている子が中学校3年生になるまで共通理解を図りながら、指導経過について見ていけるということになり、だれもが安心してということに繋がっていくため良いのではないかと思います。また、いま行っている北方町の学校教育の良さを色々な場面で残しているところも素敵だと思います。それは例えば、地域との連携を図ること、地域・学校・家庭との連携が図れているところなどが挙げられます。北方小学校と北方中学校は物理的に距離が近くて北方中学校が行っている良さを北方小学校が見てあんなふうに挨拶ができたらいい、などとお手本としても見て育っているのも、南学園でも中学校の良さから学ぶ、小学校の良さから学ぶといった事が近くで行われることはいいことであると思います。また、特色ある教育にもありますように、9年間の系統的なカリキュラムの作成ということで今小学校では、総合的な学習の時間を使って地域の川について学習、地域の福祉について学習を進めています。それが、北方が進めている平和学習についても小学校から学ぶ機会を設けて系統的なカリキュラムを組むことでより深く学ぶことができると思います。

○9年間を考えたカリキュラムでやっていくということは、子どもたちに将来の夢を持てるようにさまざまな体験や経験の場を設ける機会が増えてくるのではないかと思います。その中で自分にあつたものを選ぶことができると思いますので、いいのではないかと思います。安心・安全ということを考えますと、今災害が非常に多いので、例えば給食調理室を北学園と南学園それぞれに設けて片方が被災した場合にでももう片方が給食を供給できる仕組みを設けてはという意見も伺っています。

○安心・安全であるということが大事であると思っています。特に異学年交流の充実ということで、これは義務教育学校の大きなメリットであると強く感じております。今の状況を見たときに小学校6年生の学級が上手くいかない事例が多いです。最上級生なのにどうしてかと思われるかもしれませんが、最上級生だからこそ目標を見失ったりお手本となる姿が無かったりということで担任が苦しむケースが多くなっています。そうした時に、先ほどお話でも小学生と中学生、相互にメリットがあるというお話をされましたが、この書きぶりが低学年の児童と触れ合うことでという一例ですので中学校側のメリットとして位置づけられています、小学校側にも大変メリットはあると思います。今後具体的な取組みに期待したいと思います。

○これが実現できれば素晴らしい学校になると思います。先ほどお話にもありましたがグローバル社会になった今、英語教育の充実は是非行っていただきたいと考えています。また、子どもたちが実社会でどう生き抜いていくのかということも教えていかなければいけないのではないかと思います。知識をつけることも非常に重要なことではあると思いますが、常識を持って生活していくことが大切であると思います。最近のニュースにもありましたが東京でハロウィンが行われていますが、ゴミのポイ捨ての状況、軽トラックをひっくり返して暴れるなどひどい状況でした。今後は常識ある大人として生活していくために、子どもの頃からしっかりと教育を施す必要があると思います。設備導入の面では財源の問題もありますが、教育というものはすぐには成果が見えないものだと考えています。一義的にはテストの点数として表すことができるかもしれませんが、子どもが卒業した後にその子どもがどのように生活していくのか、問題を起こしたときに何処に問題があったのかなど最終的にはいろいろな検証の仕方や考え方があると思います。国の方も道徳を教科として取り入れましたが私の時代には道徳というものは知らないうちに親が教え、周りが教えという状況で身に着けていったものであると考えています。今は道徳を大切にすることが希薄化していると感じています。そのあたりも力を入れて取り組んでいただきたいと思います。また、先ほどもお話がありましたが、授業についていけない子どもたちを何処で重点的に指導を行っていくのかということも課題であると考えます。家庭的に問題を抱える子ども、学力的に問題を抱える子ども、経済的に問題を抱える家庭、理由は多岐に渡ると思います。そのことから、小中学校の授業でどれだけ力をつけてやれるのかということも大切であると考えています。児童生徒数が1000人にもなる義務教育学校は非常に先進的であると思いますし、創るのであれば素晴らしい学校を創っていかねばならないと思っています。そのことを踏まえ今回の教育方針を是非進めていただいて素晴らしい学校を創っていただきたいと考えています。

○母親の立場からも、だれもが安心・安全な学校であれば、子どもを安心して学校に送りだせる共に学びあえる学園ということでもいいことであると思います。羽島市の桑原学園、白川村の白川郷学園の両方を視察させていただきましたが、先ほどもありましたが落ち着いた環境での安心・安全、異学年交流ということで中学生の生徒が小学生に教科を教えていた姿を見ると9年間を通して学年の交流もいい成果となるのではないかと思います。高学年の生徒も教えることで自信が持て、低学年の児童もお兄さんやお姉さんに教えてもらったということから、自分が高学年になった時に教えることができるという自信に繋がるのではないかと思います。説明のあった教育方針(案)は素晴らしいものであると感じています。期待しております。

○北方学園が義務教育学校として発足となると岐阜県内では3校目になると思います。特徴として全国的に見ても小中一貫校の開校は、過疎化・少子化の影響で多くの学校で統廃合が余儀なくされており、そういった行政上の理由が主な要因となっているわけです。一方、北方学園構想はそういった問題ではなく、小学校、中学校が6年制、3年制に分かれている意義が現在では形骸化してきており、そのことに対して義務教育の9年間は教員又は地域で子どもの成長・発達を支えていくべきものだ、ということに私たちが正面から向き合っているところに北方学園構想の特徴があると思います。

また、だれもが安心して学びあえる学園という点では、この安心というものは外から与えられる安心だけではなく、子ども同士がお互いを認め合うということが大切です。そういう学校にいかにしていくのか。そして、そのために教員がどのような組織的な取り組みをこれから模索していくのかという意味合いが入っていると思います。先ほどもお話がありましたが、他校から見ても一つのモデルとなるパイロットスクール的なものにしていける可能性あるのではないかと思います。

もう一点大切なことは、これから二つの学校ができるということです。基本理念・方針は2校とも同じですが、北学園と南学園はよきライバル関係を構築していくことが理想です。資料にある内容をそのままそれぞれの学園が行っていくということではなくて、北学園・南学園それぞれが学園の事情・状況に合わせて独自の文化を教育文化・学校文化を創っていったいくべきで、同じものであってはいけないと思います。お互いに切磋琢磨していくことが大事で、資料に書いてある方針は大枠ではありますがそれを基にさらにそれぞれの学園でより具体化し、独自のものを創っていったいく欲しいと思います。その出発点としてここに書かれているものがあるのだと思います。

## **※以上の協議の結果、教育方針については、原案を基本として進めていくことを委員会の方針として決定した。**

### 2. 北方学園構想について

・来年度以降の検討組織(案)について説明する。

委員の主な意見は以下のとおり

○人員構成について21名予定していて、6部会ありますが、各部会に21名行くわけでないのですか。部会はある程度人数を絞るつもりはありますか。

⇒部会としては一部会5～6名程度で、実務レベルの協議を行う場とする想定をしております。また、各部会で原案を作成していただき、上位の北方学園開校準備委員会にて報告・調整していただくイメージで考えています。例えば、開校準備委員会では学校運営部会が考えた教育方針に対して、施設部会で検討する学校施設の詳細がうまくマッチングするように調整を行うような想定をしています。そのため、北方学園開校

準備委員会は人数が多くなりますが、各部会はそれほど多くならないようにと考えています。また今後、協議が深まっていけば、北と南を分けて協議しなくてはならなくなることも想定されますので、この方法で決めたら4年間そのまま行くということは考えていません。例えば2年経過した時などに必要に応じて組織を改めるなどの事項も想定しています。実際、教職員などの異動もありますのでそのような見直しも随時必要であると思っています。また、部会によって協議内容のボリュームが違うこともあり、実際の部会の運営方法には様々な課題があると思います。

○準備委員会のメンバーが複数の部会に所属することはあるのですか。

⇒全体の準備委員会の委員が21人を6つの部会に分けるわけではありません。あくまでも準備委員会の委員が21名であるということです。しかし、各部長が準備委員会に参加していただく想定ですので、そのメンバーについては重なる部分であります。基本的には準備委員会と各部会の構成メンバーは別にすることを想定しています。

⇒準備委員会のメンバーは各組織の代表を想定しており、全体を共通理解して全体を把握したり方向性を考えたりします。部会の方は学校運営部会についてほとんどは教員が中心となって教育課程を編成したりすることを想定しています。校名・PTA 部会についてはPTA や地域の方々が中心となって進めていただくことになると想定しています。部会はそれぞれの詳細について詰めていくところですのでそれを準備委員会でも長が集まって確認・共通理解を図ったりすることになります。そのため、準備委員会のメンバーがそのまま部会に行くことは想定していません。

○いよいよ来年度からとなってきましたと、学校運営部会の中で教育目標であったり、教育課程そのものをどのように編成していくのかということとか行事をどのようにしていくのか、それこそ具体的には運動会・体育祭をどのようにしていくのか、修学旅行、宿泊を伴う研修などで小学校5年生から中学校3年生まで系統立ててどのように行っていくのかということを検討しなければいけないのですが、北方小学校と北方西小学校は中学校から近いので物理的にすぐ会議を開くことができます。中学校の教頭も訪問しやすいといった点もあります。しかし、北方南小学校には中学校の先生がいないので学校の様子を見ながらかつ中学校の先生がある程度入って早めにやっつけていかなければならないのではないのかなと考えています。同じものを2校分考えるのであれば1つ考えればいいのですが、学校の規模も違えば、地域の願いも違うのでそこには地域性を出す必要があると思います。同じ町内であっても2つの学校なので北方南小学校が大事にしてきたことを中学校でも大事にしていかなければならないと思います。そういう意味でも早めに取り組む必要があり、学校の方はただ指示を仰いでいるばかりではなく主体的に進めていかなければならない、ということも内部でも話し合っています。

⇒例えば、先行的に取り組んでいく課題などを抽出するなど、検討すべき課題を整理

して考えていく必要があると思います。

○教員 WG に関する記載がありますが、学校運営部会の運営と平行して例えば、北と南のそれぞれの教員から出てもらって、その辺りについての考え方をできるだけ学校運営部会に反映させるようにするなど、北と南のそれぞれの状況を反映させていくということにおいての教員 WG は大切であると考えます。

○学校運営部会での協議では、学校の教育目標であったり学校行事などを検討しなくてはならないため、校長・教頭・教務主任の協力が必要だと思えますが、私から見ても仕事が一杯でお忙しいのではないかと思います。特に北方町は先生の出入りが激しいので先生方も3年間とか短い期間で異動する方が多いです。そのため、教員 WG の位置づけと同様に、学校では指導部会という形で小さな集まりが毎月定期的に行われていますので、それをどの先生も学園構想に関するアイデアを出す場として位置づけ、色んな先生のご意見を聞いた上でそれを集約して学校運営部会にて提案していけるようにすれば多くの先生が関わることができ、北方のこれからの学校をこうして行きたいという願いを盛り込んでいけるのかなと思います。是非そのような場を設けていただけるといいのではないかと思います。

○一部の先生で創っているのではなくいろいろな先生が参画しているそういう実感の持てる場であるということがとても大事だと思います。手間がかかるかもしれませんがじっくりそこで意見を出しあう。基本方針の所で、子どもが考えを出し合って深い学びとありますが、それをそのまま教員や地域の人々に主語が変わっても同じことが言えると思います。

○「PTA・学校運営協議会部会」というのはこれからの学園運営協議会のあり方を検討していくという意味ですか。学校運営協議会の存在は重要でいろいろなご支援をいただけたらと思います。そうしますと学園設立までに運営協議会自体も定期的に行われると思いますが、そこのかかわりというものが、長の方が委員会に見えるのでそこでご意見を頂いてまた、運営協議会に戻って進捗状況をお伝えするそのようなイメージでよろしいでしょうか。

⇒基本的に PTA・学校運営協議会部会は今後学園が、義務教育学校になった時に PTA は4つあるものを義務教育学校1つにしていこうとしたり、今、PTA と学校運営協議会が役目として重なっている部分もあったりするのでそれを整理して、できる限りスリム化して効果的な組織にしていこうなど、PTA・学校運営協議会の組織や運営のあり方を中心に協議する想定です。当然 PTA の方々の意見や運営委員の他の意見の方々の意見も、先ほどもあったように子ども達が主体になったり先生が主体になったり

と同じようにそれは工夫しながら、中身としては新しい学校になった時の組織運営をどうやっていくのかということを中心に考えていく部会として位置づけています。

○4つある PTA の中でお金の問題があります。このこともこの部会で検討することになるのでしょうか。

⇒新しい組織をどうしていくのかということ議論する部会であって、今の単 P のお金に関しましてはばらばらなので、その処理は今の PTA が中心となっていくことになると思います。将来的なことについてはこの部会で協議しますが、今のお金の処理については今の PTA で考えていく必要があると思います。

○逐次情報を流していくということがありました。建物を作って学校の先生方に運営方法を考えていただくことの方がはるかに多いのでその後、我々がどこかで関わることになると思いますが、運営方法などが決まればなかなか議論できないと思います。

⇒部会によって仕事の量や協議期間が違ってくると思います。施設部会は協議内容が多いですし、学校運営部会も先ほどおっしゃられたとおりに決めることが多くてひとつひとつが子どもに関わる重要なことなので人数的にも回数的にもかなり大変となります。先生方にとっては今の学校運営にプラスアルファの仕事になるので、事務局としても支援策を考えなければいけないと思っています。また、先ほども意見がありましたが北方町の場合3年で異動してしまうことが多いので、当初部会に参加した先生が開校時に誰もいない可能性もあります。しかし、それをなくすための学園構想でもありますので、そのあたりは組織的に引き継いで当事者意識を持ってお願いしたいと思います。

○異動する先生もいると思いますが、北方町に戻ってくる先生もいるのではないですか。

⇒北方町では少ないのが現状です。北方町では100人ぐらい先生がいますが2割～3割程度しか北方町を本拠地として勤める先生がいなくて、その他は帰ってこない先生が7割～8割程度になっています。中学校が1校しかないということは中学校間で異動できないということであり、中学校の先生は必ず外に出なければいけないこととなります。自分の子どもが入ってくるということもあり、北方町に住みながら北方町では勤めにくいという状況もありますので今回の学園構想はこれを解消するという意味もあります。

○そうすると、学園構想を進めることで長期にわたり北方町で勤めることができるということですか。

⇒例えば、中学校の先生が北学園に7年いた場合、次は南学園に異動することができ



ます。そしてスキルアップしてまた北学園に戻ることはありえます。町外に出たとしても北方町を勤務の本拠地とするのであれば長くいることはできて、自分の子どもが入学してきた場合、子どもがいない方の学校に異動することができます。

○いずれにしてもモデル校になると思います。先にもありましたが国の施策で少子化などの問題で学校が統廃合されていく中での統合整備ですが、そういう意味では北方町はどうしても急いで行う緊急性があるわけではなく、それぞれの学校文化の継承には問題もあると思います。

○問題があるということではなく、全国的に6年制・3年制という制度が硬直化していないか、子どもの発達段階の加速化の中で今の枠組みでいいのか。これは学会でも非常に大きな問題となっています。発達に即した学校のあり方について考えた時に一貫性や接続化といったことがとても大事な問題で、小学校の先生は小学校だけとか、中学校の先生は3年間だけ責任を持つという考え方ではやっていけないと思います。子どもが発達する9年間に即した学校づくりをどのようにしていくのかということに北方町は正面から向かおうとしていると思います。全国的に少子化が進んでいるので、それに対応して行政が動くということも大事なきっかけではありますが、北方町の場合は少子化のみが要因としてではなく、発達に即して子どもをどうとらえてそれに即して安心できるような、子ども達がじっくりと学べるような学校をどう創っていくのかということでこの案が出てきていると思います。研究者から見ても注目すべき取組みだと思います。

○どうせ創るのであればモデルとなる学校にしたいと思います。

⇒最初からモデル校としてではなく、結果としてモデル校にできる可能性はあると思います。

○部活動部会についてですが、先ほどの説明では体力づくり感覚でもいわれていますが、個人競技は個人の問題だと思いますが、団体になるとなかなか一つの学校では人数が集まらず組織できない可能性が考えられます。少し前は、ソフトボール部の人数が少なくて試合ができなかったということも伺っています。今は野球部の人数が少ないということも伺っております。学校が分かれたときに共同で部活動を運営するなどの検討は必要ではないかと思います。練習場所についても今の中学校のテニスコートが離れたところにありますが、公式試合ができる大きさのテニスコートが無いとまた移動していかなければならないと思います。現に明治製菓や本巢市のテニスコートをお借りして練習していると伺っています。その辺りの整備の検討も行っていただきたいと思います。できれば一つの目標となるように力を入れて子どもたちも優勝するぞといった意気込みがもてる部活動環境の整備をお願いしたいです。

⇒部活動については様々な意見があります。例えば、人数が足りなければ合同チームで出るということもありえますが、単独で出場できるのであればそうした方が主役として活躍できる子どもが増えることとなります。練習場所や運営方法についてはこれを機に部活動改革や働き方改革の問題もありますので、どの子どもにとってもいい方法を探っていきたいと考えています。国の制度でも、部活動指導員制度、社会人コーチ制度などがありますし、いろいろな改善策が出てきていますのでうまく活用できるよう考えていきたいと思っています。

○野球でもドラフト指名されると1億円が入ってくるという話がありますが、指導者の力量も大事であると思います。指導者への謝金をケチってはいけません。優秀な先生を積極的に集めて欲しいと思います。

○今回をきっかけとして、今までの教育の課題や良い点などをもう一度洗い直していくよい契機になるのではないかと思います。

○保護者の中でも心配されている方がいろいろ見えますが、新しいことが始まる時というのは先生方も大変だろうと思います。学校でも子どもたちのためにも良い構想を造りたいと話していますが、今までと同じ人数で新しいことに乗り出すということは無理が生じることもあるかと思っています。新しいオペレーションに必死になってしまって結局問題が起きてしまってなにをやっているのだ、ということにならないようにだけは注意しなければいけないと思います。また、PTA に関しては、とても小さい町で PTA と先生との距離が非常に近くて上手くできている町だと思います。これを機にもっともっと PTA の協力を先生方と一緒にやっていけたらと思っていますのでよろしくお願いします。

**※以上の協議の結果、来年度以降の検討組織（案）については、原案を基本として進めていくことを委員会の方針として決定した。**

## 2. 北方学園構想について

- ・意見書の構成について説明する。  
委員の主な意見は以下のとおり

○これをまとめて2月に意見書として提出するのですか。

⇒12月の会議では原案を基にご協議いただき2月の会議の際には完成品ということでご確認いただきたいと考えています。

○構成に関してはこの順番立てで記載した方が読み手としては読みやすいのではないかと思います。現状がどうであって義務教育学校がどういう制度であるのかといったこと、町としてどのような体制をとって何を目指すのかということで大変分かりやすく論立ててありますのでよろしいかと思います。ところで、この内容だと文章ばかりにはならないですか。

⇒イラストやイメージ図を入れながら構成したいと考えています。

○冊子的なものになるのですか。

⇒参考資料などの量もありますのでそれなりのページ数にはなると思います。

○今後部会ごとで活動していく際の手がかりとなりますか。

⇒そのとおりです。

○意見書として提出するということは、意見書として許可をいただくということですか。

⇒検討委員会としてこの方向で進めていくとよろしいと思います、という意見をまとめたものを町長に渡すということになります。そして、今後町が詳細を詰めていく際には、意見書の内容に則って進めていきます。という位置づけになります。実際には、先ほどご説明した開校準備委員会に繋がっていきます。頂いた意見を基に進めていくというイメージとなります。意見書の内容は学園構想の基本的な考え方になるという位置づけになるということではよろしいかと思います。

**※以上の協議の結果、意見書の構成について、原案を基本として進めていくことを委員会の方針として決定した。**

## 2. 北方学園構想について

・構想全体の総括について

委員の主な意見は以下のとおり

○配置図(案)を見たときに、北学園の真ん中の道路の問題などがあると思ったので、先日、町議会の全員協議会にて他の議員の意見を聞きました。その内容を報告をさせていただきたいと思います。学園構想自体には私は当初から賛成しております。9月の議会におきまして、学童保育棟の設計委託料400万円の補正予算案が提出されこの案につきましては私自身反対をさせていただきました。反対した理由としましては、この学校構想検討委員会の中でソフト面については協議がなされていますが、総事業費に関する詳細な説明が議員にない状況であります。その中で学童保育棟の建設にとりかかりたいというものであります。総事業費が分からない中で事業を進めようされ

ましたので反対した次第です。次に、給食調理場については私だけではなく何人もの議員から質問が出されており、課題となっていると思います。スケジュール表を見ますとどのような形かは分かりませんが、後2年で給食調理場が建設されるという予定されているということでもあります。スケジュールにもありますが給食調理場建設も含めた中でこの進め方についても一度お伺いしたいと思います。次に、小学校の大規模改修工事についてですが、大規模改修工事を行った時と改築した場合のコスト面を考慮したうえの大規模改修工事を選択したのかご意見を伺いたいと思います。また、全員協議会におきましては小中学校の間の道路を封鎖することについて強い意見が出ました。道路封鎖は同意できないという意見が出ております。長寿命化工事を行うことによって建物が後何年もつのかという意見も出ております。校舎としては建て替えた方がいいのではなかという意見も出ております。大規模改修工事を実施するのであればコアを抜いてコンクリートの劣化状況を把握した上でのことなのか。これについては根拠となるデータが示されていないことから、建物の状態を把握せず大規模改修工事に着手しようとしているのであれば反対するという意見も出ております。あと、予算的なことですが、執行部は概算予算を把握しているのか。資金計画はできているのか。という意見も出ております。給食調理場の問題について計画より遅れておりますが、事務局からは早急に取り掛かりますという答弁を受けておりますが事業が遅れていると感じており、私自身も早急にとりかかっていたいただきたいと思います。みなさまからも要望していただきたいと思います。工事費については、設計段階に入ってから議会に報告がなされると思います。今の状況下では検討委員会の方針について意見は出ていません。道路の封鎖についてはかなりの意見が出ています。この問題については町長にも地域住民と共同して構想を進める中で各自治会の理解を得なければならないと意見しておりました。その話も自治会の方へはどのような形で道路封鎖の話を進めていかれるのか。そういったこともお聞きしたいと思います。何度も申し上げますが、給食調理場の建設についてはいつから取り掛かれるのかをお尋ねしたいです。

○議員の立場からご検討をいただいていると思います。道路封鎖の問題、給食調理場の問題があると思います。

⇒行政として答えるべきことと、この検討委員会で検討すべきことは整理して考えなくてはならないと思います。例えばこの平面図に関しましては、限られた敷地の中でよりよい学校にするためにはどうやったほうがいいのか、ということは検討委員会の中で検討すべき事項ですが、予算の詳細についてまでこの場で検討することは難しいと思います。

○それは分かります。しかし、その裏ではこのような議論がなされており予算が無ければ事業が進められないわけです。予算を無視して教育方針についてのみ議論しても

実現することは無いわけです。議会は予算についての協議をこれから行っていかなければなりません。当面の課題としましては意見書が出るときに今の話で道路封鎖の話地域住民に持っていったとき、十分議論がなされていなければ議員のせいになって議員が怒られてしまうので、議会としては慎重に進めていきたいと思ひます。この問題は数名の議員から出ています。この事業を進めるためにも地域住民の利用状況等のデータを集めた上で理解をいただく努力をしなければならぬと思ひます。懸念しているのは、意見書を受けたのでそれに沿って進めますと言われるとどうしようもないので、どこの段階においてでも地域住民の理解を得ることを進めていかなければならぬと思ひます。2月に意見書を出されるのであれば、まだ10月ですので今のうちから地域住民に説明していただかないと理解は得られないと思ひます。

⇒住民全体への説明は意見書が出た後など、ある程度内容が定まってからでないと難しい面もあると思ひますが、学校の近隣住民に対する説明は、早い段階から進めていく予定をしています。

○もう一点申し上げたいこととして、今のコミュニティーセンターは公民館の代わりに補助金がいただけたということで建設したわけですが、先日のハロウィンのイベントがあつて様子を見てきました。入り口からして靴が散乱しており他人の靴を踏まなければ入つていけないという状況で、建物の面積的にも狭いという話はしましたが予算の関係上広げることができないことから1億円程度で建設されましたが結局使い勝手が悪くなつています。私が学童保育棟の予算に反対した理由としまして、学童保育棟が敷地の北西にあり非常に狭く、狭あいな場所であり送迎時における車の出入りは危険と思われるので反対しました。この検討委員会の中では予算のことについては話す場ではないかもしれませんが、そのようなことも含めて学園構想に対して意見を言いますので嫌な発言ではありますが、ご承知おきいただきたいと思ひます。

○構想進めていく上では、予算などさまざまな条件や制約があると思ひます。情報をいただきましたのでその辺りも承知した上で、議員には検討委員会ではこのような話を進めているということを議会の方にも十分ご説明をいただき、それを支援する形で進めていただきたいと思ひます。どうか議会代表のお二人には是非ご協力・ご支援いただきたいと思ひます。

○今道路の話をしていただいたところで勝手なことを申し上げますが、学校側の立場からしますと一つの学校になるということを考えると真ん中には道路がない方が絶対にいいと思ひます。やはり子ども達が行き来するということが一つあることと、小学校と中学校の児童生徒全員を全職員で指導にあたりますので物理的に学校が分かれているという状態にはしたくないと考えています。地域の方々の生活道路として使つてみ

える道路ですが10年20年先を見据えてなんとかご協力いただき、いずれは一つの学校になってよかったなと皆さんに言っていただけるような学校にしていくことでご理解をいただくしかないのかなと思います。安全面であったり、子どもたちの動き、教職員の動き、学校教育活動を考えたときには校舎をつなげていただいて管理棟が真ん中にあるという配置が一番学校の形としてはありがたいと思います。

○道路のことについて地域住民は非常に困惑しています。そういうこともありましたので、以前、町には地域住民に早い段階で説明をして理解をいただくようにと意見しましたが、検討委員会の意見がまとまる前では十分な説明が出来ないため、わざわざお集まりいただいても具体的な話ができなくては申し訳ない、という返答でした。まとめてしまってからでは遅いので、同時進行をしていく必要があるときは平行して進めなければいけないと思います。交通量が少なくても封鎖することで不便になるという意見があれば謙虚に受け止める必要があると思います。意見書を出すまでには地域住民に説明をして了解を得た中で意見書にしないと、ここで決めたから封鎖しますということになると大変なことになると思います。学童保育棟の建設については、国でも進めているので北方町においても3、4名の待機児童がいると伺っていますので建設については反対ではないです。必要な施設ですので造っていった方がいいと思います。何平方メートルの建物になるのかは分かりませんが、学童保育棟を先行させるのか、給食調理場を先行させるのかどう議論になると我々からすると給食調理場を先行して着手できないかという思いがあります。

○学校の安全安心ということを考えると道路があるのはどうかという話があり、それと地域の方々の意識のずれと申しますか、その辺りのところを今後詰めていく必要があると思います。

○小中学校をつなぎたいという思いは分かります。しかし現実的に生活道路が封鎖されてしまいます。地域住民に理解をしていただく作業を進めないことについて理解ができないと申し上げているのです。なぜ躊躇しているのですか。

⇒先日、議員から意見を頂いたこともあり、近隣住民向けの説明会を行う予定にしております。11月には説明会を開催し、学園構想の趣旨などを説明して住民のご理解を頂けるように努力しますので、ご理解いただきますようお願いいたします。

⇒意見書には、地域の住民の方、様々な方の理解を得ながら進めていくことが大切であるという内容も盛り込みたいと思います。先ほど学校施設配置のイメージと申しましたが、詳細設計もまだこれからで、このイメージどおりに造るところまではまだに詰まっていない部分もありますので、実際の施設整備の際にはこういった点に配慮して進めていくべきものという意見を反映して意見書を構成したいと考えています。

○前々回の委員会で、学校を改築するときに勤務していた関係でいよいよ学校を建て替える際に保護者の方々は通学路の心配をされたというお話をさせていただきました。そのときは時期尚早かと思いましたが、だんだん具体的になればなるほどそのような心配事が増えてきます。子どもは何をするのか分からないということがあります。また、生活環境が変わったときに本当に安全に学校生活ができるのかという親の心配も出てくるのではないかと思います。「安全」は学校において一番に配慮しなくてはならない問題です。住民の理解を得るためには、生活が変わって子どもがどういう動きになるのか。どこをどう使うのか。頻度はどのくらいなのか。など、具体的なシミュレーションをお示しいただけると説得力が増すと思います。

○小中学校を一貫したものとしてとらえていくということは今後21世紀の教育の大きな方向性であろうと思います。今は、6・3年制ですが今後、形の上では6・3年制であったとしても4-3-2年制にするなど5年生・6年生・中学校のその接続をどう考えるのか。これも学校教育の問題です。先ほどもお話があり、6年生の有り方について問題になりましたが、これは全国的にも大きな問題です。4-2-3年制などいろいろ考案されています。ドイツは古くから小学校は4年制です。試行錯誤の上でそうなっていると思います。私たちも子どもの発達がいろいろ変わってきている社会的状況の中で、今回の義務教育学校というものが法的にも整備された上でそれを契機にして考えていくいい機会だと思います。今後北方町は児童生徒の発達に即した学校をどう創っていくのか。研究者の立場からしても注目していきたいし、一緒になって考えていきたいと思っています。それに伴って教員の取組みや意識をどう変えていくのかということも大変重要なテーマになってくると思います。教科担任性や高度なものを小学校のうちからもそこに落としていく、あるいは学びなおしの機会があるなどいろいろ出てきています。教科担任制というものが出てきたときに、一方で中学校の教科担任制が軸になると子どもとの接点が弱くなるとか学級作りという視点からだ弱くなるなどの側面も出てくると思います。中学校の教員はその教科しか担任していないので子どもの全体像が見えないというところもあります。それは中学校教育の今までの問題であったと思います。しかし北方町の場合は、小中の教員が協力して中学校の教員が自分の教科だけではなくて他教科や小学校の先生の考え方も視野に入れて子どもに関わっていく、そこに新しい中学校といいますか後期課程の新しい方向を作っていくということに繋がっていくのではないかと思います。教科担任制だけではなく学年担任制などいろいろなものと重ね合わせながら子どもの教育にあたっていくなどいろいろ模索されていくといいのではないかと思います。北学園、南学園それぞれでそういったことを考えていただきたい機会ではないかと思います。過去に日本でも様々な義務教育学校、小中一貫制について模索されています。教育長におかれましても様々な学校を訪問されて事情を探ってみ

えるようですが、先行事例も研究してみなさんで情報提供しあって考えていくことが必要ではないかと思います。国立教育政策研究所という機関が日本にありますが、そこは文部科学省の様々な政策を考えていく上での基礎的なデータを出す場です。その研究によりますと事前に十分に義務教育学校の構想であったり組織の有り方について具体的に見当したうえで踏み出した所こそ、開校後の満足度が高いというアンケート結果がでてきているということが分かっております。そういった視点からしますと今後の部会や教員のWGなど、ネットで調べてみますと先行事例として、瀬戸市が小中一貫の義務教育学校を造ることについての資料を公開されています。それによりますときまざまなワークショップを行いながら例えば、PTAのことについてどう考えるのか、様々な議論がなされています。一つ取り上げてみますと小中一貫校と地域の連携活動を想像してみようということで保護者14名と教員14名と瀬戸市教育委員会の職員を含めてそこでディスカッションした経過が載っています。外国語学習支援、英語などの支援についてどのように考えたらいいか、生活指導、図書館ボランティア、国際交流など様々な分野にわたって議論しているという状況がでています。このようなことを部会や教員WG そういうところでやっていく必要があると思います。今は働き方改革という考え方がトレンドなので積極的な参加を思いとどまってしまうのではなく、新しいものを造っていくときにはやりがいがあるテーマだと思いますので、是非北方町のより多くの先生に関わっていただくことが必要でないかと思います。話し合う中で北と南が考えていることが違ってきているなどか思うことがいいのではないかと思います。1つの学校を造るのではなく、2つの学校が同時にできるということにお互いが自分を照らし出して、双方の学校のアイデアを取り入れてお互いにいい意味で切磋琢磨していく関係性を作っていく。それができてから始めるのではなくできる前からお互いに議論していくと大変いい学校ができていくと思います。学校を造る課程に参画できることなどそんなになので、そのところを丹念にやっていくことが岐阜県全体に対しても非常に大きな発信性のあるものができるのではないかと思います。是非造る課程を大事にしてやっていく、造ってからその上でということではなく、造る課程においていろいろ教員・地域の方が関わってそこに参画してということが、きっとその後の自立した教師、自立した子どもを育てるという素晴らしい文化で岐阜県全体に対して発信できるのではないかと大変期待しております。このところは大変大事なテーマだと思います。2校がそろった校風になったらおかしいと思います。ちよつとずれがあるということに意味があると思います。そのずれを巡って、違いを巡ってお互いを尊重していくということがよりよい学校を創っていくことになると思います。是非その辺りのところを大事にしてもらいたいと考えています。そのためにいろいろ調べてみましたところ、接続期をつくる、というお茶の水女子大学附属幼・小・中が一貫してどのような学校を創っていくのかということについての議論ですが、ここでもいろんなことが出ています。小中学校はいかにスムーズにいかにつなげていくか、ということが今まで議論されてきたと思いますが、それだけではだめだという



ことが書かれています。なめらかな接続、これが大変大事だと中学校生活をゆったりとスタートできる配慮をする。しかし、そのなめらかな、スムーズな接続だけではなくて、中学校は入っただけの充実ではなくステップアップしたという充実感を感じられるような段階も大事じゃないか。そんなことも書いてあります。この段差ギャップという、ギャップとして段差を考えるのではなく、お互い支えあいながらジャンプできるような適切な段差が必要であると。抽象的かもしれませんがそのようなことも意識しながら考えているということが書かれています。それから中学校の数学の先生が中学校のことばかりに目を向けていたけれども小学校の子どもがどんなつまずきをしているのかを考えることが大切ということです。この子が前向きに数字について学んでいけるためにどうしたらいいのかということで、一度小学校の教科書に戻ってそれを元にして中学校の教育を考えているという。そんなことがいろいろと書いてあります。小学校のころ算数が苦手だった子どもについて、小学校の先生と相談して考えていくということが書かれています。こういったことは非常に今後の北方町の具体的な姿の中で生かしていけるというかまさにそういう場の設定が北方町ではできるのではないかと思います。造った後には新たな課題が出てくると思いますが、これからの構想の段階からそういったことを先生同士で話し合っただけで論じていく必要があると思います。そしてできてからも実践と繋げながらよりよいものにしていく、そんなことが必要じゃないかと思えます。ですから小中接続、小中一貫などそのような問題は子どもの成長を支えるためにも教師自身の考え方が変わっていく必要があると思います。考え方を変えていくためには今回の制度設計がどのように充実したものにしていくのかということが、大きな基礎になると思います。もちろんその根底においては、予算や改修といったハード面も大事だと思います。北方町の教育というものを大きく深めていく大事な局面に接していると思えますのでみなさんの協力のもとに進めていきたいと思えます。

#### 4. その他

次回の日程と内容についての事務連絡。

今回は、意見書(案)等について協議したい。開催日は12月20日頃を予定している。